

敬老の日を迎えるにあたり 9月

今年も「敬老の日」がやってきます。北久原区では、コロナ感染拡大防止のため2年間式典も行わず記念品の配布だけでした。今年こそは飲み食いをしなくても式典を行い、多年にわたって北久原区や地域社会に尽くしてこられたお年寄りの長寿をお祝いしたいと計画を進めてまいりました。しかし、行動制限がないお盆の人流の影響なのか感染者数が大幅に増加しました。そのために、昨年と同様に記念品を配布するだけの敬老会になってしまい、楽しみにしていたお年寄りの方に申し訳ない気持ちでいっぱいです。



柴田トヨさん (98 歳)

もし、敬老会の式典を行っていたら、区長挨拶で柴田トヨさんのお話をしようと考えていました。約10年程前になるのでしょうか。柴田トヨさんが98歳で詩集『くじけないで』を出しました。その詩集には、もうすぐ100歳を迎えようとしているのに、前向きに生きていくこと、いろいろな人に感謝をすること、毎日新たな発見をしている事などが飾らずに綴られています。実は、その頃我が家では父が亡くなり母が元気を失っていました。そんな母に「お母さんよりも10歳以上も年上のお婆さんこんな詩を書いているよ。ちょっと前向きにこれからの10年を生きようよ。」とプレゼントしたのが詩集『くじけないで』でした。この詩集の中で私が好きな詩を2編紹介します。

生きる力

九十を越えた今
一日一日が
とてもいとおしい

頬をなでる風
友からの電話
訪れてくれる人たち

それぞれが
私に
生きる力を
与えてくれる



くじけないで

ねえ 不幸だなんて
ため息をつかないで

陽射しやそよ風は
えこひいきしない
夢は
平等に見られるのよ

私 辛いことが
あったけれど
生きていてよかった

あなたもくじけずに



本の表題になった「くじけないで」は、96歳の作品でした。どの作品にも込められているのは、「人生、いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる。」

という前向きな思いでした。

もし、みなさんが悲しくなったり、辛いなと感じたりしたときには、トヨさんの詩を思い出して前向きなエネルギーを取り戻してほしいと思います。